



伴学区 社協だより

発行 伴学区社会福祉協議会
住所 〒731-3164 安佐南区伴東7丁目64-8
電話 082-848-3277

あなたの近くに私たちがいます

高齢者訪問作業 「とも」が生活支援を拡大

一人暮らしのお年寄りや高齢者世帯など、日常生活でお困り方の身近な作業を訪問支援する、伴学区社協のボランティアバンク「とも」。設立七年目の今年七月から、介護保険法で定める総合事業「住民主体型生活支援訪問サービス実施団体」の活動を始めました。

地域包括支援センターと連携、福祉委員や女性会とも協力し、住み慣れた地域で安心して暮らせる地域づくりを進めます。介護保険制度の公助の支援と、住民ボランティアの共助の支援を合わせたハイブリッド支援方式。支援体制が充実し「とも」の活動範囲も次のように広がりました。

(一) 介護保険制度のヘルパーの作業範囲外の掃除や洗濯、食事、買い物代行、薬の受け取りなどの室内作業を支援。車での送迎はできません（一号サービス）
(二) 庭の草取り、ごみの運搬などの屋外作業は、今までと同じ範囲で支援します（二号サービス）

支援作業を有償化

これまで無料でしたが、無理のない範囲での有料とします。
一号サービス 一回三百円
二号サービス 一回五百円



高齢者夫婦がごみ処理の依頼。女性会と福祉委員の4人が1時間半かけて分別。ごみ出しも手伝う



近助の力 一人暮らし世帯から草取り・整枝の依頼。会員と近隣の7人が、一人なら一日仕事を1時間半で。ごみ袋16個を運ぶ

七月から十一月までの五カ月間で、実に十三件の作業に対応しました。

支援作業の登録者は男性七十四人、女性六十一人の計百三十五人。依頼に応じて適材適所、安心して利用できる体制です。

お困りの作業があれば、遠慮なく連絡し、必要な支援を受け、地域の皆さんとのかかわりの中で、一日でも長く健康で自立した生活を送りましょう。皆さんからの連絡をお待ちしています。

（「とも」事務局長 上野昭司）

連絡先

戸山・伴・大塚地域包括支援センター

☎ 八四九一五六八〇

沼田老人いこいの家

☎ 八四八一三二七七



第10回伴社協グラウンドゴルフ大会 3月6日開催

コロナにも 災害にも負けない

災害ボランティア結集

記録的な大雨で土砂災害が近年相次ぐ中、伴地区で初めての災害ボランティア活動が九月、展開されました。

お盆の長雨の影響で、伴中央の裏山が崩れ、住宅と周辺に大量の土砂が押し寄せました。広島市の復旧工事に合わせ、伴学区の町内会連合会と社協が、土砂撤去作業の協力を呼び掛けました。



土砂を撤去する学生ボランティア

安佐南区社協のボランティアセンターが窓口になり、広島大学の学生ボランティアを含めて五日間、延べ二百人が作業。一帯の泥や土石を取り除きました。

地元の包括支援センター、高齢者福祉事業所、体協、ボーイスカウト、ソフトボールチームなど各種団体が協力。地域の結束力や災害ボランティアの運営など地域で学ぶ点が多い活動になりました。

ワクチン接種 予約を代行

伴学区コロナワクチン接種支援実行委員会が、老人いこいの家に事務局を置き、接種を希望し、予約を取れなくて困っている人などの予約代行を行っています。

社協、町内会連合会など

五団体で六月に結成。予約の受入れ先として、地元の日比野病院とマツモト外科整形外科の協力も得ました。接種の希望日などを記入する予約状況確認シートを学区内に配りました。老人いこいの家にもシートを用意しています。

予約受付から医療機関への予約、予約結果の依頼者への連絡までスタッフが代行します。六月二十九日に一人目の予約依頼を受け、十月二十日現在、六十五人の予約を代行しました。六十五歳以上は七人で、十二歳以上の各年齢層に広がっています。

接種支援体制は今後も継続していきます。



書面審議で3議案を承認 (令和3年度評議員会)

伴社協の令和3年度評議員会は、コロナ対策のため六月、前年同様に書面審議し一般会計予算案など三議案を原案通りに承認しました。

予算総額314万0501円。前年度実績より66万1518円減としました。前年度は広島市からコロナ対策応援金として136万7100円の雑収入を計上し、総額が膨らみました。収入面では、町民(三千世帯)が町内会経由で納める会費(一世帯二百円)を60万円見込んでいます。

支出面では、グラウンドゴルフ大会など、前年度中止した事業費などを計上。高齢者伴安心ネット推進費として認知症カフェ設立準備費1万円を新規に計上しました。

みんなの善意銀行の予算総額は、前年度実績より17万6176円減の376万1465円。収入面では賛助会員年会費85万円(個人25万円、法人60万円)、支出面は敬老会補助金40万円、団体育成費23万3000円などを計上しています。

伝説の舞い 地域挙げ若い力を応援

三城田神楽団 創作神楽「火山」完成

火山の神武天皇伝説を基にした三城田神楽団による創作神楽「火山」が、地域の全面支援で完成しました。広島市の地域活動支援の助成金も受けて新調した華麗な衣装や舞台を用いて十一月十四日、沼田公園で初上演しました。

新しい舞台は長さ七段、奥行き五段、特設の花道付き。この事業を主導した住民団体「アートな伴クラブ」や町内会連合会、社協など地域のみなさんが、火山を望む公園に前日から組み立てました。

火山には神武天皇が日向から大和への東征で火山に立ち寄り、援軍を呼ぶ「のろし」を頂上で上げた伝説があります。建国の合戦も盛り込むスケール大きな創作神楽。熱気あふれる若い団員によるダイナミックな舞いが魅力です。



新調した衣装で見事な舞いをみせる団員たち

～火山の緑美しく 出会いの水の澄むほとり： 伴小学校歌にある古里の風景を象徴する「火山」。「ひやま」の読み方も分からない子どもや大人たちもいます。

これを懸念した地域住民の働き掛けを受け、四年前に復活した三城田神楽団の団員十四人が、古里の神楽創作に挑戦。一年以上の地域と一体の取り組みが結実しました。

若者中心の神楽団は岡崎神社を拠点に活動。老人ホームを慰問し、神楽を懐かしむお年寄りが多いという。

この日の初舞台は、コロナ禍の影響で無観客でしたが、後日の動画を発信します。組み立て式の舞台は、ふるさと祭りなど地域の行事で今後も活躍します。

奥田海斗団長は「古里を題材にした神楽ができて私たちがうれしい。この神楽が地域の宝物の一つになれば。大好きな神楽を地域のためにも役立たせたい」と語ります。



毎朝、グリーンヒル大原の住宅団地でボランティア見守り隊員が、登校する児童を見守る。平成二十三年春、老人会から有志が引き継いだ。隊員二十一人と保護者が横断歩道三カ所に交代で立つ。みんなの善意銀行から長靴と手袋も寄贈。「雨の日、雪の日に助かっています」。あいさつと安全・安心と地域の連帯をモットーに保護者も一緒に活動する。





自主製品の常設ショップ

みらいちゃんショップ 火山館に毎月開店



沼田合同庁舎「火山館」の交流スペースに障がい者作業所の自主製品販売の「みらいちゃんショップ」が、十月誕生しました。第一、第三木曜日、午前十一時～午後二時に開店。地域の人々が、障がいのある人と触れ合い、理解を深める場の実現です。障がい者の自立支援を目指す

沼田地区の作業所、地域包括支援センター、女性会と協がつくる委員会による運営です。初日は三つの作業所が野菜やクッキー、布マスクなどを売りました。今後、パンの販売や喫茶も検討中です。

地域の魅力と共助の意識を高める広島市の地域活動支援事業に採択されました。組み立て式の備品類のほか、「みらいちゃん」の着ぐるみも製作。初日来店の松井一實市長を出迎えました。

地域に開かれた珍しい常設ショップは、令和元年に交流スペースで始めた「とも福祉フェスタ」から発展しました。

- ▽太田川学園
 - ▽工房とも
 - ▽ひだまりの家
 - ▽どんぐり作業所
- のみなさんが参加します。



新着の着ぐるみも松井市長を出迎え（10月24日）

みんなの善意銀行

(敬称略)

★賛助会員

みんなの善意銀行の令和三年度賛助会員登録数は十一月末現在、個人会員（一口千円）が百八十三人、前年同期より八十四人増えています。企業・団体（二万円）は二十八団体です。

▼香典返しにかえて

(令和三年三月～三年十二月)

町内会	寄付者御芳名	死没者名
大原	丸本初枝	英明
奥畑	尾崎昌子	登
三城田	高尾美恵子	國治
雲願寺	西本節子	奥田澄江

▼一般寄付者

上伴 岡本忠明

おめでとうございます

安佐南区社会福祉協議会

会長表彰

伴社協 石富三弘 (敬称略)

令和三年度社協役員のみなさん

会長	伴 晴英
副会長	川本 一之
兼高齢者福祉部会部長	伊藤 修太
兼善意銀行事務局長	池田美代子
兼福祉委員部会部長	有馬 義憲
兼児童福祉部会部長	西田 雅行
地域福祉推進委員	稲葉 憲治
事務局長	山田 初則
会計	塚本 一
総務部会部長	中村 晴男
広報部会部長	圓山 文雄
障がい者福祉部会部長	新村 雅雄
ボランティアバンク	上野 昭司
事務局長	上野 昭司